

日本人学校におけるバイリンガル・バイカルチュラル人材育成のためのプログラム開発とそのための教員研修のプログラム開発

令和2年11月7日合同研修会

多文化共生の学校づくり ～青島日本人学校の実践～



本校の児童生徒の傾向

- ・もともと多様性に富んだ環境。
- ・上の学年になるほど無意識に日本の価値観、ルール、文化の基準に従うような場面が見られる。

共通の課題に対し、「日本語」を媒介として対等に話し合っていくために



日本語力の
向上

それぞれの背景にある文化や習慣にも目を向け、尊重し合える関係を構築するために



多文化共生の
学校づくり

今年度の取組

I.今年度の日本語指導について

①課外の日本語教室(小1・小2)

⇒小1:金曜日、小2:月曜日

②個別の日本語指導(中1・中2・中3)

⇒中国語や部活動の時間

③在籍級での日本語指導

①課外の日本語教室

小1



4～5月オンライン日本語教室
(週2回)

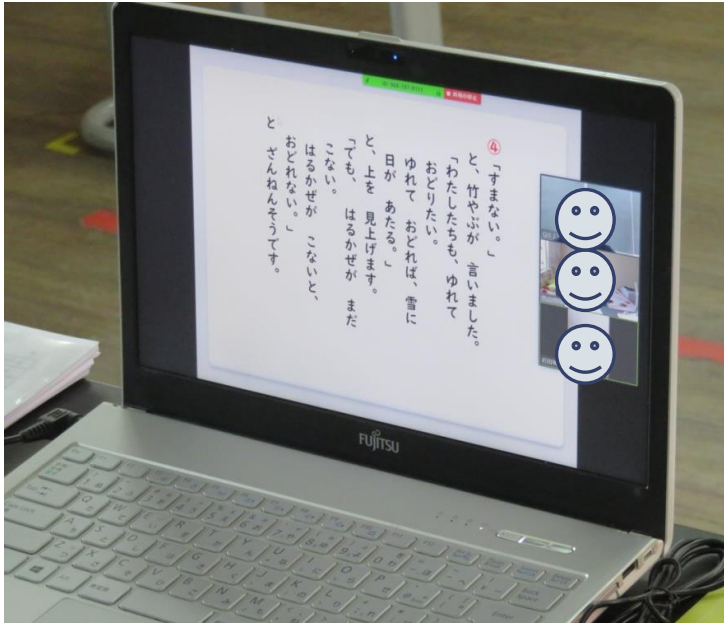
自己紹介や持ち物、教室での
言葉などを学習した。

6月～学校生活で必要な日本語

ロールプレイやインタビューを多く
取り入れ、発話重視で進めた。

* 2学期からは、**国語と算数の先行・補充学習**を行っている。

小2



4～5月オンライン日本語教室 (週1回)

国語の先行学習を中心に行った。



6月～先行・補充学習

担任と相談しながら、国語と算数の
先行・補充学習を行っている。

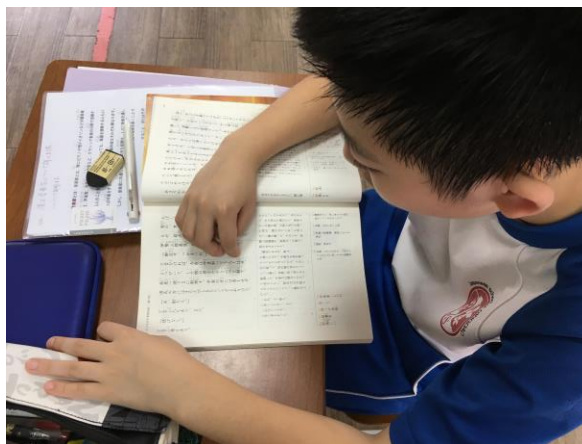
※9月にDLAの4項目(話す、読む、書く、聞く)のアセスメント
を実施。

② 中学部・取り出し指導

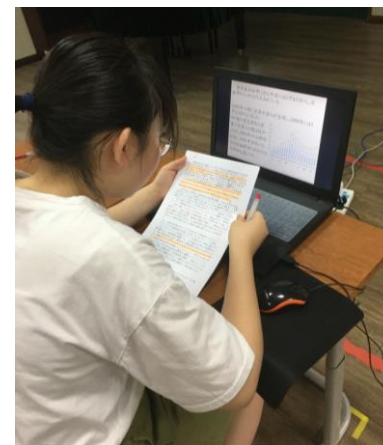
4・5月はオンラインによる学習(週1回)



中1 国語
短作文の練習



中2 国語
音読練習



中3 社会科
調べ学習発表会
に向けて

- ・3名とも現地校から編入した生徒。
- ・生活言語能力はさほど問題ない。**学習言語能力が課題。**
- ・担任・教科担任と連絡を取り合い、必要な学習を行う。

③在籍級での日本語指導



小1国語 「うみのかくれんぼ」

「とい」と「こたえ」の学習

- ①教科書から「いきもののなまえ」「かくれるばしょ」「かくれかた」を見つけ、ワークシートにまとめる。
- ②図鑑の中から自分が紹介したい生き物を選び、ワークシートにまとめる。
- ③ワークシートにまとめた言葉を使って「かくれんぼクイズ」を作り、みんなの前で紹介する。



うみのかくれんぼ

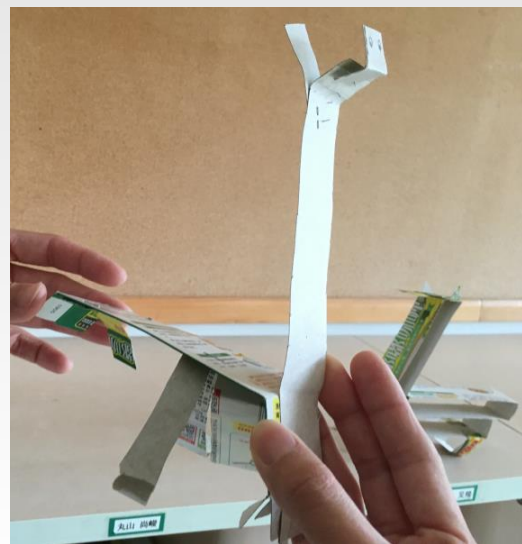
イソアナゴは、あなごをい
かくれています。
イソアナゴは、あなごをい
らからたからねばねばの
えきをだして、あなごのう
ちかわにぬります。きけん
をかんじると、すぐにあな
ごのなかにかくれます。

なまえ

小2国語 「馬のおもちゃの作り方」

在籍級担任と 日本語指導担当の連携

説明文を読みながら「馬のおもちゃを」作る活動。



在籍級での学習



日本語学級で再度、
説明文を読みながら作る。



日本語学級での補充学習

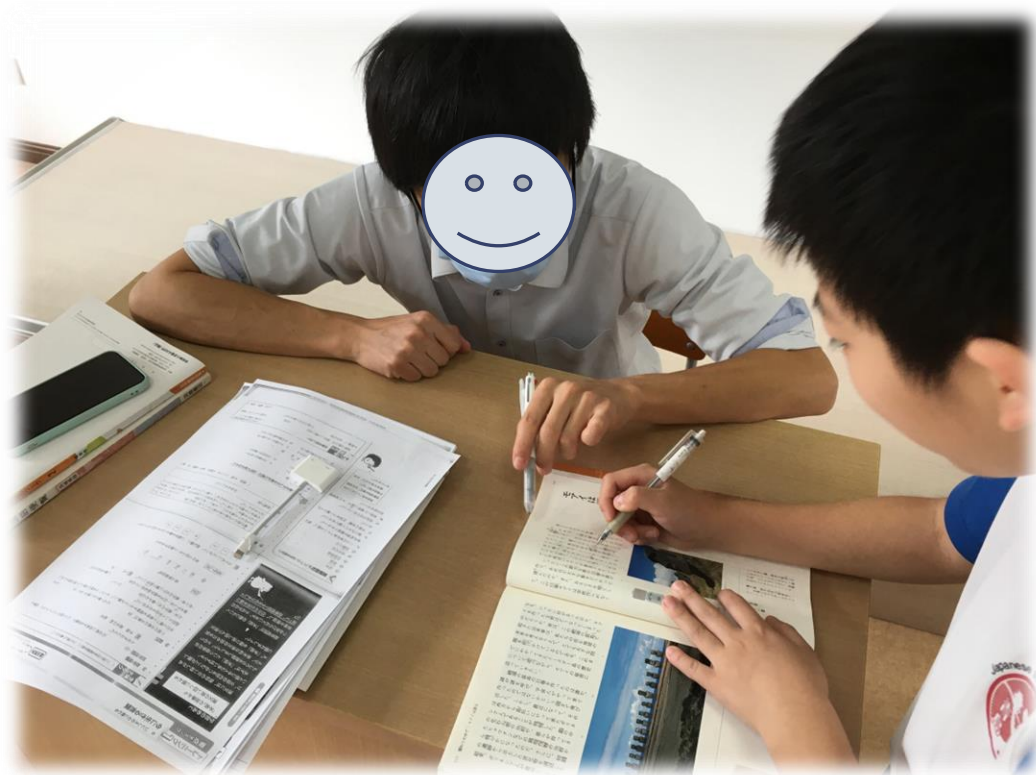
説明文をゆっくり読んで確認したり、
友達の様子を見たりしながら、説明文
通りに作ることができた。

中2国語

①教科担当と日本語指導担当の連携

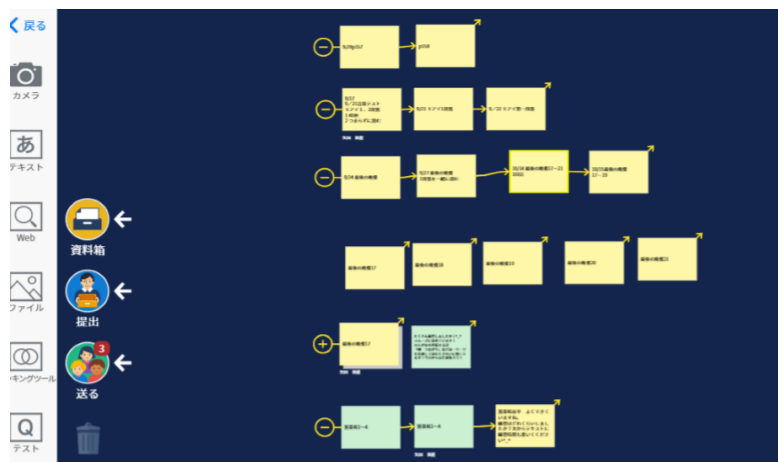
毎時間の授業後**5分間**、教科担当が音読指導や補充指導。

* 国語は1週間に4時間×5分間=**20分間**



- ・**学習言語**が少しずつ定着。
- ・**音読**で成果が出ている。

②ロイロノートを活用した家庭での音読指導の充実



- ・ロイロノートの録音機能を活用。
- ・生徒はそれを聞きながら音読練習を行い、録音したものを教師へ送る。

- 成果:**
- ・学校と家庭でつながりのある学習ができるようになった。
 - ・学習の積み重ねが一目でわかる。
 - ・生徒の学習に対する賞賛と励ましを行うことができる。

課題: 課題の精選。



Ⅱ.「多文化共生の学校づくり」について

【3つの資質の育成】

- ① 多様な人とかかわる機会をつくることで
他者と関係を作り出す力
- ② 課題を他者とのかかわりを通して解決
する力
- ③ 他者や未来への創造力の育成

教科の実践例
中3社会科

2020年7月
Zoomによる
授業公開

多文化共生のまちづくり成功事例の調べ学習を通して、私たちに求められている態度を論述する授業



- ・多文化共生のまちづくりの成功事例から共通点を読み取り、最終的には**私たちに求められる態度を論述できた。**
- ・「多文化共生2.0」や「インターカルチュラルシティ」などの最新情報も学び、**これからの多文化共生の在り方を考える機会となった。**

中学部の取組

教材①



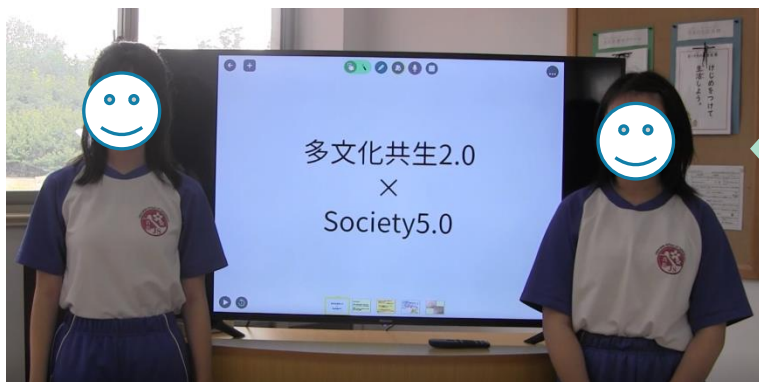
教材②



- 中学部は学活や道徳の時間などに「多文化共生」についての考えを深めている。
- 中3は多文化共生に関する**動画作成**を行った。

動画のテーマ

「Society5.0の技術を使って、多文化共生における課題を解決しよう！～あったらいいなこんなモノ～」



中1 (学活) 自作資料

「自分が当たり前だと思って過ごしているけど、他の国ではそうではない、驚かれることを考えてみよう」

自分の常識は世界の非常識？！

Q:外国人が驚く日本の食べ物はどれでしょう？
思うものに全て〇を囲みましょう。

豆腐	マグロの目玉	すき焼き	卵掛けご飯	肉じゃが
豆ごはん	松茸	ちゃんこ鍋	ふぐ	あさりの味噌汁
たこ	甘エビ	白子	イカの塩辛	馬刺し
こんにゃく	たらこスバグティー	ちくわ		
ウニ	なまこ	卵焼き	長崎ちゃんぽん	ひじき
ちりめんじゃこ	栗の甘露煮	馬刺し	納豆	
ずっぱん	わさび	うなぎ	鯖の塩焼き	鯖の煮つけ

Q:外国人が驚く日本人の習慣や行動はどれでしょう？
思うものに全て〇を囲みましょう。

電車のなかで寝る	自転車で会社に行く
マスクをしている	髪の毛を染める
放課後塾に行く	クリスマスにケンタッキー・フライド・チキンが人気
眼鏡をかける	緑茶を飲む
家の中では靴を脱ぐ	電車のアナウンス
大衆浴場でお風呂に入る	朝ご飯にバナナを食べる
ぶどうの皮をむいて食べる	印度
	英語を勉強している



名前 ()



日本と他国では「宗教、国の情勢、国民性、食文化」などに違いがあることを知り、その違いを尊重することが大切であることを考えた。

本学級の生徒たちは、多様な文化を受け入れる素地があることを実感した授業となった。

中2（学活）

教材①

言語の平等を考える・わかりやすく伝えよう！

～やさしい日本語～

看板や緊急時のことを例に、外国人にも分かりやすい日本語を一緒に考えた。

『やさしい英語』や『やさしい中国語』で考えてみる時間を設定することにより、安心して学習に取り組むことができた。

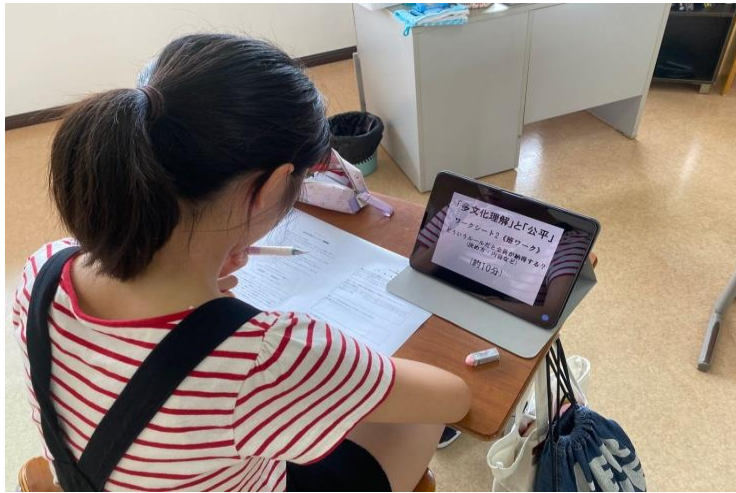


授業の振り返り

- ・あまり難しい言葉(単語)を使わず、簡単な言葉を使った方が相手に伝わりやすいと思いました。
- ・〇〇くん(学習言語に課題のある生徒)にも分かるような日本語が、やさしい日本語だと思いました。
- ・『そもそも、日本語の意味も難しいな～。』と改めて思いました。

中3（学活） 教材②

ホームルームで考えよう 異文化尊重と公平



生徒の感想より

その時にどこまで自分が知らない文化や考え方について理解できるかが大切だと思った。相手の文化に合わせる必要も遠ざける必要もないけれど、受け入れる態度を示して、対等に話し合いをしていきたい。

多文化社会のジレンマ「掃除編」

異なる文化背景を持つ人たちとうまく折り合いをつけるためにはどうすればよいだろうか？

〈ワークシート2〉
「みんなが納得するルールのために」

3年 | 組 3番 名前 [])

(個人ワーク)1 なぜその選択をしたのですか？理由を書いてください。

一人だけはいいとその人が汚くから。清潔が好きがいるわけではないから。もう一人は汚くならないかと思ってる。その人の国の考えを大切にしたい。日本では、掃除をする場所がないならやめてしまわないのかなと思ってる。お互いちゃんと話し合おう。

(班ワーク)2 この場合に全員が納得する、平和的なルールはどんなものですか？
(決め方・内容など)

当番がなく全員一斉に。まずEさんの国に何か文化があることをみんなで共有。逆さ責任をやる。それとEさんも日本のルールを受け入れること。折り合い。Eさんの手理由をきく。その班のみんなが納得する話し合い。同じようなこととして同じ目的のものなら違くないとする。

(班ワーク)3 多文化共生社会において大切なことはなんですか？
(班で話し合ったことをメモしよう)

多文化理解は、その国の文化を大切にしたいことと受け入れることとが大切かと思う。相手の方でその歴史があるのかという根本的なことを知ることが大切かと思う。それを、お互い共有して受け入れる姿勢を示すこと。という問題は解決していくこと。

今日の感想を書いてください

異文化による問題で、その場所のルールに合わせるか合わせるかは、場合によって違ってくる。その時にどこまで自分が知らない文化や考え方について理解できるかが多文化社会において大切になってくることかなと思います。必ず相手の文化に合わせる必要も遠ざける必要もないので、受け入れる態度を示して、対等に話し合いをしていきたい。

小学部・オンライン交流会

小1
生活科

11月19日、26日に実施予定
山口県下関市立本村小学校1年生との交流
「むかしからつたわるあそびをたのしもう」

小5・6
総合的な学習

10月15日(木)
長崎県佐世保市立江上小学校6年生との交流
討論テーマ「わたしたちの平和島」



小5・6交流

〈プログラム〉

1. 初めの言葉
2. 代表挨拶(青島5年)
3. 文化発表(中国クイズ、佐世保クイズ)
4. **真剣10代しゃべり場！**
テーマ「私たちの平和島」(50分)
5. 振り返り
6. 代表挨拶(江上小6年)
7. 終わりの言葉



* グループワークの内容 *

「平和島」(架空の島)にさまざまな国のルーツをもつ人々が集まった。そのうち同じルーツをもつ人同士が集まり、さまざまな問題が発生する。住人達は問題の解決方法を考えることにした。

- 話し合いのポイント:
- ① 起こりうる問題
 - ② 解決方法
 - ③ 「平和島」の望むべき姿

めざす平和島の姿

- ・一人一人が思いやりをもち、他国の文化を受け入れ、争いのない平和島。

- ・それぞれの国を尊重し、ひとつの島になり、差別がない平和な島。

など

事後指導について

テーマ:

「自分と違う文化を持つ人たちが、あなたの隣の家に引っ越してきました。その人たちは、日本のルールや日本人の生活様式に合わせて過ごしていくべきだと思いますか」

【まとめ】

お互いに歩み寄って生活していくことが大切。



おわりに

マニラ・大連の先生方と共にAG5の研究を推進し、**日本と中国の架け橋になる人材の育成**を目指して教育活動に取り組んでいきたいと思えます。